

カギかけロックの唄制作委員会主催による防犯ソング「カギかけロックの唄」発表会が2月27日、東京都千代田区麹町の東京FMホールで開催された。

防犯ソング「カギかけロックの唄」は、日本ロックセキュリティ協同組合の鈴木祥夫理事長(株利研ジャパン代表取締役社長)が作詞し、作曲・歌をロックグループのinfix(インフィックス)が手がけたもので、(公財)全国防犯協会連合会が推薦している。

侵入盗犯罪件数は、平成15年をピークに減少傾向にあるが、住宅対象侵入盗のうち、「鍵のかけ忘れ」は45% (平成25年)と依然として高い状況。そこで、日本ロックセキュリティ協同組合の理事長も務める鈴木理事長が、楽しい音楽を聞きながら一般家庭における戸締りの確認と啓發を目的に、防犯ソング



チーム「Lockey」で唄と踊りを披露

カギかけロックの唄 防犯意識・戸締り確認を啓発 制作委等が発表会



鈴木理事長

さんの司会で進行。はじめにカギかけロックの唄制作委員会エグゼクティブプロデューサーでロックセキュリティ協同組合理事長の鈴木祥夫氏があいさつ。「なぜこのカギかけロックの唄を作ったか。防犯活動でチラシを配するなどあるが、関心を持たないかということで、今回唄を作り、歌により関心を持っていただこうと思った。また、子どもが関心を持つてもらうこともある」とするとともに、ロックセキュリティ協同組合の紹介や、6月9日「ロックの日」について説明した。

また、鈴木理事長は「春先になると、引っ越しシーズンや新しい家を持つ。その時、家のカギは大丈夫かといふことがある。セキュリティに关心が高まっていることである。自分の家のカギ。もう一度見直してもらいたい。戸締りをしてもらいたい」とし、このあと続けて防災と防犯の重要

事業を実施する運びと

うことで犯罪を減らすことがある。この唄をきっかけに広く皆様に防犯意識を持っていただきため、広くアピールしていきたい」と述べた。

協賛団体の日本ロック工業会の木村昌充専務理事(加藤海士郎会長代理)は「我が国での侵入窃盗犯は1日10件以上起きている現状。カギのかけ忘れによる侵入も40%以上であることを鑑みると、国民の防犯意識の低さが大きな原因と思われる。このためには、自衛防犯運動と意識向上が重要」等と述べた。

作曲・歌を手がけたinflixの長友仍さんは、数々のチャリティ活動やボランティアの実績があり、「ラジオを30年近くやっており、その中でこちら10番というコーナーがある。事件を行うコナーがたまたまロックセキュリティ協同組合のマスコットキャラクター“ロック君”



ホール外には最新のカギ情報を紹介

性を語り「防災と防犯はワンセットとここ数年感じている。特に3年以降、強い意識を持つている」などと述べ、「今年が防犯、防災、セットで見直す元年になればいいなと思う」としている」とした。各氏の挨拶に続き、「カギかけロックの唄」がinflix(長友仍さん、佐藤晃さん)を中心に、2部としてコンサート等を中心としたイベントが開催され、鈴木理事長扮したカギかけ黄

髪のマスクをつけて登場した。その後、分野別に分類された防犯意識を持つことを訴え、カギかけ等に関係した唄がいくつも披露された。

いバラエティイベント(C)から、自律移動型ロボットの開発はじめ、20年以上フィードバックで、JAXA(宇宙航空研究開発機構)のはやぶさ2プロジェクトを実施する運びと緩和できる。

SEQSENSEは2016年10月創業で、JAXA(宇宙航空研究開発機構)のはやぶさ2プロジェクトを実施する運びと緩和できる。